

がんセンター 便り

 宮城県立がんセンター地域医療連携室



抗がん剤治療とサポーターケア

支持療法チーム 腫瘍内科 おおつか 大塚 かずのり 和令

一般の方が抗がん剤治療と聞いてまず思い浮かべるのは、悪心・嘔吐に苦しむ患者さんの姿でしょうか。確かにふた昔ほど前までの抗がん剤治療は悪心・嘔吐との闘いといった側面が強く、とてもつらい治療だったことは否めません。しかしセロトニン拮抗薬やアプレピタントを始めとする新たな制吐薬の登場などにより悪心・嘔吐の制御は見違えるほど良くなりました。新たな抗腫瘍薬の開発とも相俟って抗がん剤の有効性はますます高まっております。一方、従来の抗がん剤による副作用に加えて、分子標的薬による独特の皮膚障害、免疫チェックポイント阻害薬による自己免疫疾患関連副作用など、以前とは異なる副作用も見られるようになってまいりました。昨今は多くのがん患者さんにおいて生活のベースは入院主体から外来主体へと移りつつありますが、それに伴いこれまでにはやや軽視されがちだった脱毛を始めとするアピアランスの問題にも関心が高まりつつあります。このように、悪心・嘔吐ばかりではなく他の副作用にも患者さんの目がむけられるようになってきました。副作用の状況によっては抗がん剤の減量や中止によって対処せざるを得ない場合もありますが、しっかりと副作用の対策をすることによりなるべく抗がん剤の投与量を保つことが、多くの場合、より高い治療効果につながります。抗がん剤の有効性を減弱することのないよう、また副作用で患者さんの治療意欲が削がれてしまうことのないよう、うまく対処してゆくことがより一層求められております。このような観点から、当院でも支持療法チームが発足する運びとなりました。とはいってもさすがにがん専門病院だけあって優秀なスタッフが揃っており、各診療科・各部署で十分な支持療法が既に行われている状況ですが、院内アンケートなどからは皮膚障害やアピアランスなどに対する介入のニーズが高いようで、まずはここから着手される予定です。もちろん他の副作用の相談にも皆で勉強して対応してゆければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



「支持療法チーム」はじめました

支持療法チーム

薬剤部 がん専門薬剤師 つちや まさみ
土屋 雅美

みなさんは「支持療法」という言葉をご存知でしょうか。国立がん研究センターの「がん情報サービス」によれば、支持療法とは、「がんそのものに伴う症状や治療による副作用に対するの予防策、症状を軽減させるための治療のこと」とされています。がん治療に伴う患者さんの苦痛を軽減するために、医師、看護師、薬剤師がこれまでも様々な取り組みを行ってきましたが、この度、がん治療における支持療法を専門に行う「支持療法チーム」が立ち上がりました。支持療法チームは、各診療科医師や、国立がん研究センターでのアピアランスケアの研修を修了した看護師、各専門・認定看護師、薬剤師など、診療科・職種の垣根を越えたメンバーで構成されています。がん治療中の患者さんのQOLを低下させないことを目的に、支持療法に関する相談窓口を開設し、患者さんが気軽に相談できる体制を構築するとともに、院内外における支持療法の質を向上させることがねらいです。

現在、①アピアランスケア（がんそのものや、治療による見た目の変化に対するケア）、②分子標的薬による皮膚障害対策、③放射線性皮膚炎対策、の3つに関する取り組みを開始しました。支持療法チームは、治療中・治療後のがん患者さんのQOLを高く維持できるように、相談体制の構築や研修会の開催、パンフレットの作成など、これから様々な取り組みを行っていく予定です。まだ始まったばかりの取り組みではありますが、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



支持療法チームメンバー
前方向って左から二人目 土屋薬剤師

がん治療中の「見た目の変化」
病院で相談できます

治療による脱毛
ウィッグ（かつら）や帽子のご紹介
・ シャンプー・リンスの方法
・ まつ毛、まゆ毛の脱毛の対策

爪のトラブル
・ 爪の割れ、欠け、乾燥
・ 爪の変色

皮膚のトラブル
・ 湿疹、肌のかぶれ
・ 皮膚の変色
・ スキンケアや化粧の方法

専門の看護師、薬剤師が対応します
まずはお気軽におたずねください

場所：
1階 がん相談支援センター
(エレベーターホール横)

宮城県立がんセンター 支持療法チーム
宮城県立がんセンター 相談支援センター

「宮城県立がんセンター 地域医療連携の会」 報告

副院長兼地域医療連携室長 やまだ ひでかず 山田 秀和

第3回目を迎えた「地域連携の会」を10月4日（水）に江陽グランドホテルで開催いたしました。今年は初めて全診療科の関連施設に案内を差し上げ、101名の院外参加者を迎えて開催することが出来ました。これは昨年の89名を大きく上回り、講演会・懇親会とも盛会のうちに終了することが出来ました。この紙面を借りて院内外から御参加頂いた方々に心から御礼申し上げます。今年の講演会のメインテーマは「低侵襲医療」であり、4つの診療科から講演をしてもらいました。内容はいずれも好評で当院での先進的ながん診療の一端を披露できたと自負しております。来年はがんセンター開設25周年に当たります。より盛大で、関連施設の方々とより密接な連携を築けるような会にしたいと考えています。よろしくお願い致します。



院長 小野寺博義 挨拶



副院長兼地域医療連携室長 山田秀和



消化器内科 涌井佑太



呼吸器内科 福原達朗



乳腺外科 角川陽一郎



形成外科 後藤孝浩

第14回 がんセンターフォーラム特別講演のご案内

日時 平成30年2月17日(土) 15:00～16:00

場所 宮城県立がんセンター 1階 大会議室

内容 【特別講演】

講師：一般財団法人バイオダイナミックス研究所
理事長／研究所長 前田 浩 先生

参加無料 申し込み不要

問い合わせ先：宮城県立がんセンター 企画総務課



外来新患診療体制表

平成29年11月現在



(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
血液内科		●		●		●
腫瘍内科		●		●		
呼吸器内科		●	●	●	●	●
消化器科	新患	●	●	●	●	●
	専門外来	下部・肝臓	肝臓	上部・胆膵	肝臓・下部	上部消化管
頭頸部内科				●		
緩和ケア内科				●		●
呼吸器外科				●		●
消化器外科			●	●		●
乳腺外科		●			●	
整形外科			●		●	●
形成外科			●			●
脳神経外科		●		●		●
泌尿器科		●		●	●	
婦人科		●	●		●	
頭頸部外科		●	●		●	
放射線治療科		●	●	●	●	

*消化器科では、専門外来の診察日にも紹介患者さんの予約を受け付けております。お申し込みの際にご確認下さい。
診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL 022-384-3151(代) FAX 022-381-1169(地域医療連携室)



交通案内

J 桜交 R 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
仙南交 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
自家用車 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
県道仙台・岩沼線を利用(所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

- 受付 午前8時30分～午後5時15分
- TEL (022) 381-5152(直通)
- (022) 384-3151(代) 内線123
- FAX (022) 381-1169(地域医療連携室)

宮城県立がんセンター
〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
電話(代表) (022) 384-3151 FAX(企画総務課) (022) 381-1168

ロゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。